

霧島市地域公共交通網形成計画推進に係る 事業報告

平成29年2月28日
霧島市地域公共交通会議

(1) 地域公共交通のサービス見直し

① ふれあいバスのサービス見直し

計画概要 計画 P101

運行ルートの見直しや路線バスとの乗り継ぎ利便性を高めるようなサービスの改善を行う。特定の路線・地区については、利用促進策を実施するとともに、持続的な移動手段の確保に向け、沿線住民の理解・納得のもと、運賃の値上げやデマンド交通の導入など他の移動手段も検討

経過

平成28年7月に実施した住民座談会における地域の方々の意見等を踏まえ、各総合支所担当者とのワーキング会議や、交通事業者との意見交換等を重ね、見直し方策案を作成

<見直し方策（案）*見直し対象路線数>

地 区	新設	路線廃止 ()はデマンドへの移行	ダイヤ変更 (時刻・ルート・増便・減便)	デマンド交通 の導入
国 分	—	—	1	—
溝 辺	1	2	2	—
横 川	—	—	3	—
牧 園	—	1	9	—
霧 島	—	1	2	1
福 山	—	(2)	1	2

(1) 地域公共交通のサービス見直し

② 路線バスのサービス見直し

計画概要 計画 P105

➤ 異なる運行事業者の営業区域の枠を超えた新たなバス路線の共同運行（実証運行）

霧島市の公共交通ネットワークは、従来どおり、地区内の公共施設や生活利便施設などを地区拠点に設定し、そこで鉄道や幹線バスに乗り換え、市の拠点（国分・隼人地区）まで外出できることを基本とするが、国分地区・隼人地区へのバス利便性が比較的低い横川地区・溝辺地区については、その利便性を高めるため、“異なる運行事業者の営業区域の枠を超えた新たな支線バスの共同運行”についても検討し、実証運行を行う。

経過

平成28年9～11月にかけて溝辺地区、横川地区に在住の高校生（国分中央、国分高校、隼人工業）及び溝辺中、陵南中、横川中の全校生徒の保護者を対象としたアンケートを実施
アンケートの結果、溝辺・横川地区から国分・隼人市街地への直行バスについて一定のニーズがあることを確認（別紙「アンケート結果報告書」参照）

<アンケート結果概要>

■溝辺・横川地区から国分・隼人地区への直行バスが運行する場合の利用意向等

- 96名の高校生が直行バスを利用したい意向
- 加治木方面に進学希望の中学生のうち、44名が霧島市内の高校へ進路変更の意向
- 進学が未定である中学生のうち、57名が霧島市内の高校へ進学したい意向
- 国分・隼人へ進学希望の中学生のうち、81名が直行バスを利用したい意向
- 横川から国分高校へ通学する生徒は、大隅横川駅を5:42発のJRへ乗車し、隼人駅で乗り継ぎのため、約50分待機している状況

<アンケート結果を踏まえた方策（案）>

アンケート結果から、溝辺・横川地区学生の通学利便性向上のため、なんらかの方策を講じる必要があり、案として、以下のような方策が考えられる。

案1 異なる運行事業者の営業区域の枠を超えた新たな支線バスの共同運行

アンケート結果から、溝辺・横川地区から中心市街地（国分・隼人）への運行ニーズが非常に高いことが明らかになり、従来のバスネットワークにこだわらず、利便性・効率性を高める新たなバス軸の導入を進める必要があり、“異なる運行事業者の営業区域の枠を超えた新たな支線バスの共同運行”の実施

■検討に係る関係者 : 霧島市、鹿児島交通(株)、南国交通(株)

案2 スクール便の運行

溝辺・横川地区学生が中心市街地（国分・隼人）まで通学するためのスクール便として、市が貸切バス事業者と契約を行い、通学に特化した形で学生の移動手段の確保を図る。

例) 横川 ⇒ 溝辺 ⇒ 隼人駅 ⇒ 国分駅

■検討に係る関係者 : 霧島市、市内貸切バス事業者

案3 JR日当山駅と国分高校等をつなぐふれあいバスの運行

JR肥薩線を利用し通学する生徒の利便性向上のため、「JR日当山駅」と「国分高校」等を繋ぐふれあいバスの運行を行う。

※溝辺ふれあいバスのJR嘉例川駅への乗り入れについても併せて検討

■検討に係る関係者 : 霧島市、鹿児島交通(株)

<アンケート結果を踏まえた方策（案）イメージ>



(1) 地域公共交通のサービス見直し

③ 市内主要JR駅のバリアフリー化

計画概要 計画 P106

「高齢者、障がい者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」において、1日当たりの平均的な利用者数が3,000人以上の駅については、平成32年度までにバリアフリー化（エレベーターの設置等）を実施することとなっている。高齢者や乳幼児を連れた方など、誰もが安心・安全に利用できるように、国や県などの補助制度を活用し、地域公共交通のアクセス拠点、乗り換え拠点等のバリアフリー化やユニバーサルデザイン化を行う。

経過

JR国分駅において、改札からホーム（2番、3番）をつなぐエレベーター整備、エレベーターデッキ新設、旅客通路新設、誘導ブロック、内方線整備、盲動鈴新設に係る設計を実施した。 ※工事は平成29年度に実施予定

■平成28年度

設計費 19,300千円

負担者	負担額	負担割合
国	6,433千円	1/3
霧島市	3,216千円	6/1
鹿児島県	3,216千円	6/1
JR九州	6,435千円	1/3

■平成29年度（予定）

工事費 149,258千円

負担者	負担額	負担割合
国	49,752千円	1/3
霧島市	24,876千円	6/1
鹿児島県	24,876千円	6/1
JR九州	49,754千円	1/3

<参考1> 国分駅バリアフリー化に係るパブリックコメントの実施

- 1 意見募集方法
(1) 国分駅構内でのアンケート
(2) 電話での意見聴取
- 2 意見募集期間
平成28年11月1日(火)～平成28年11月14日(月)
- 3 意見聴取結果
アンケート回収枚数：44枚(電話での意見なし)



<アンケートでの主なご意見>

<バリアフリー整備に関するご意見>

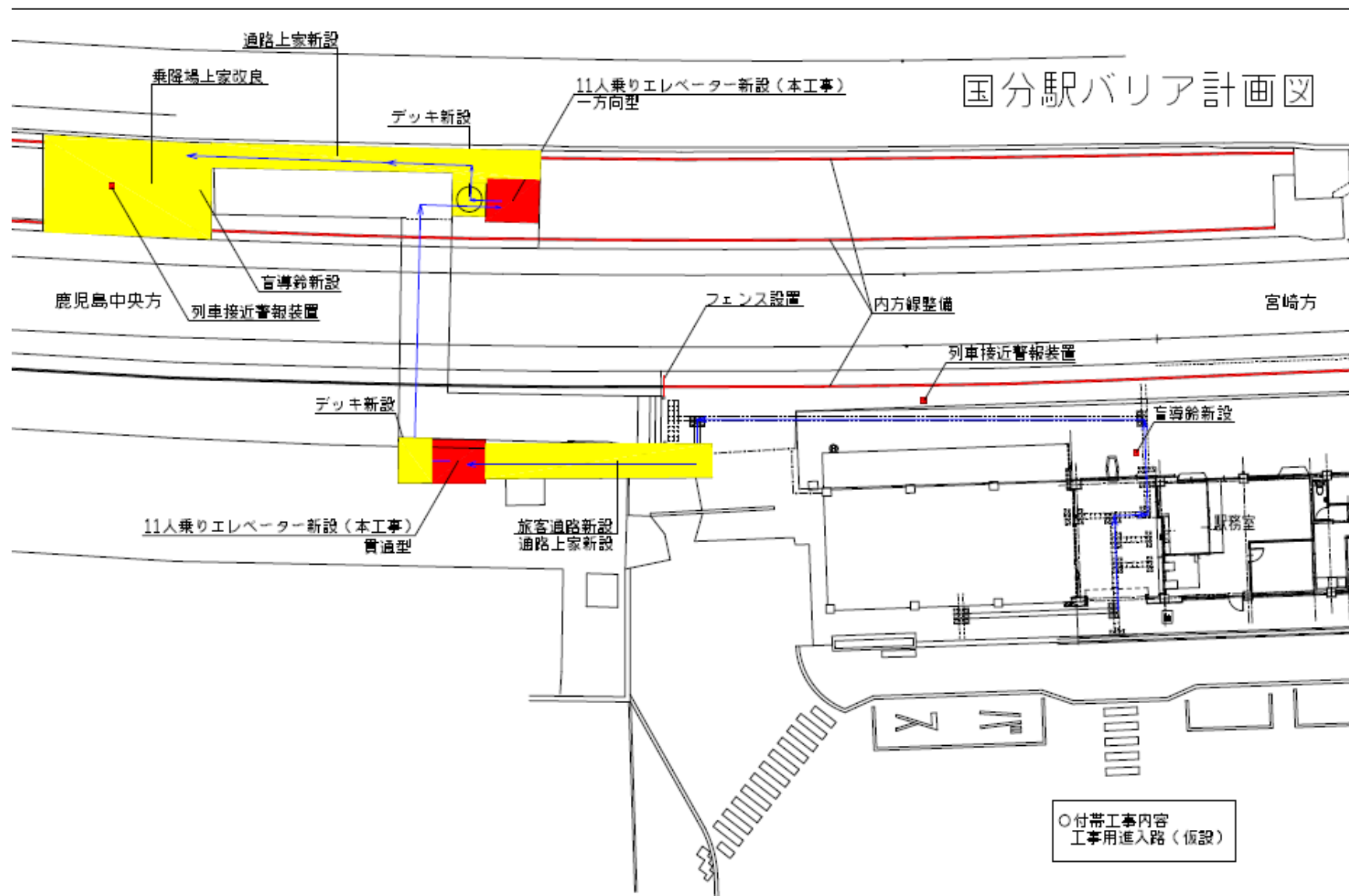
- スロープを整備してほしい。
- 貫通式エレベーターの整備を行ってほしい。
- 聴覚障害者に対する情報提供設備を考えてほしい。

<バリアフリー整備以外のご意見>

- ホーム上屋の延伸や送迎用駐車スペース増の要望等



＜参考2＞ 国分駅バリアフリー化 計画図



(1) 地域公共交通のサービス見直し

④ 公共交通不便地域におけるコミュニティバスの実証運行

計画概要 計画 P106

市民が安心・安全に快適に生活できるよう、市内の中山間地域を中心として、“ひとにやさしい”地域公共交通の実現を目指し、既存の公共交通ネットワークの見直しを行いつつ、必要最小限のサービス水準が確保されたコミュニティバスを運行する。

実績

既存のふれあいバス停留所から1 Km以上離れている集落で、通学、通院、買い物等に不便を来している地域において、一部のふれあいバス路線を延伸し、公共交通不便地域の一部解消を行った。

- 福山町宝瀬地区に「宝瀬停留所」を新設【運行開始日：平成29年2月1日】
- 国分平山地区に「平下原停留所」を新設【運行開始日：平成29年2月1日】



(2) 地域公共交通の利用促進

② 公共交通マップの作成

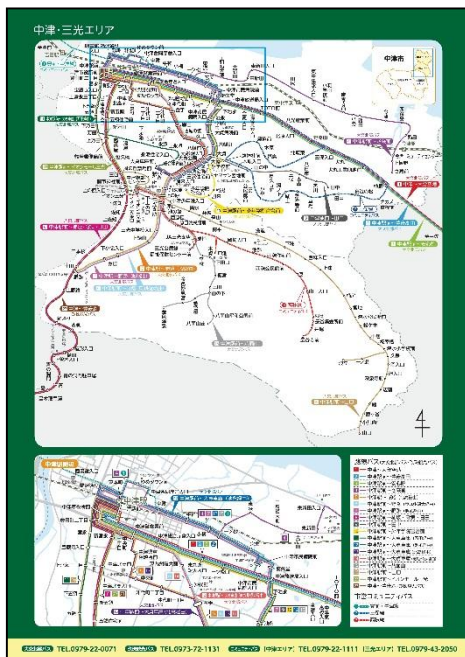
計画概要 計画 P108

公共交通の路線図やJR・路線バス・ふれあいバス等の時刻表等を記載した「公共交通マップ」を作成し、各公共交通機関の乗り継ぎ等を分かりやすくすることで利用促進を図る。

実績

路線バス、ふれあいバス、JR等の霧島市の公共交通網を一元化した公共交通マップを地域別に作成

⇒現在作成中であり、平成29年3月末までに完成予定



(2) 地域公共交通の利用促進

④ 住民座談会等を通じた直接的コミュニケーションによる利用促進活動の実施

計画概要 計画 P109

住民座談会や市が実施する出前講座等を通じて、市民の皆さんと直接コミュニケーションをとり、路線バスやふれあいバスの利用促進に向けた取組を行う。

実績

平成28年7月に市内5地区10箇所で住民座談会を開催し、延べ200名の方々との意見交換を行った。

日にち	開催場所	地区名	参加人数
7月12日(火)	麓原公民館	溝辺	22人
7月13日(水)	小廻公民館	福山	13人
	浦町公民館		12人
	大廻公民館		19人
7月21日(木)	牧園農村活性化センター	牧園	41人
7月22日(金)	霧島総合支所	霧島	39人
7月23日(土)	横伏敷消防拠点施設	横川	5人
	佳例川公民館	福山	23人
7月24日(日)	前川内公民館	横川	14人
	横川総合支所		12人
合計			200人



(2) 地域公共交通の利用促進

⑦ ICTを活用した効率的な公共交通情報の提供の検討・実施

計画概要 計画 P110

国内外の観光客等に分かりやすい二次アクセスに関する公共交通情報発信を行うため、パソコンやスマートフォン等でバス等のダイヤ情報や乗り継ぎダイヤ、観光地等の最寄バス停、経路ルートを手軽に入手できる「バスダイヤ簡易検索システム」の導入を検討する。

実績

民間の経路検索システムサービス会社（株）ナビタイムジャパン）と契約を行い、次の路線情報を同社のシステムへ掲載

<対象路線>

- ふれあいバス
- 霧島連山周遊バス
- 妙見路線バス

<掲載開始日>

平成29年2月9日（木）

